自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を踏まえ、スローガンを掲げている。全職員参加のもと協議し作成したものであり、常に意識しサービス提供に努めている。	開設当初に職員全員で話し合い、作り上げた理念をもとに行動指針を作成し、それを道しるべとして管理者と職員は共有して日々の中でも話し合いながら、利用者にゆったりと寄り添う実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元集落のボランティア以外にも、隣接している集落のボランティアも来てくれている。祭りも同様、地元と隣接集落の青年団が足を運んでくれ、太鼓や獅子舞を行なってくれている。	地域の保育園や小中学校の行事に積極的に出向いたり、来所してもらったり交流を深め、郷土芸能のボランテアの訪問等が活発に行われているなど、集落と利用者との繋がりをより深めているが、地域の自治会への加入等はまだされていない現状がある。	集落のボランティアの訪問は盛んに行われており、利用者にとって大きな喜びとなっている。今後は地域の一員として地域の共同作業への参加や、自治会への加入を視野に入れて行かれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員に余裕がある日は、入居者様と一緒に翌日の食料品を買い出しに出掛けている。運営推進会議に地元の代表の方に出席して頂き、情報交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催出来ていて、状況報告等を行なっている。出席者からの質問、意見が聞かれ、サービスの向上に努めている。	2ヶ月ごとに開催し、会議では2ヶ月間の状況報告及びサービスの実際について報告され、メンバーからの質問、意見、要望を伺いサービス提供に活かしている。全職員へは会議録で周知されている。	2ヶ月毎に開催され出席者から意見や質問をいただいている。今後も参加可能な家族や利用者にも参加していただき、出された意見の対処法やその成果についての報告も行い、更に向上していかれることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市の職員の他、社会福祉協議会の職員にも出席して頂き、協力関係が築けている。高齢福祉課とも電話やメールで情報交換や、連絡・相談が行なえている。	市担当職員との積極的な連携が構築されており、運営推進会議だけでなく、折に触れ迷いごとの相談、助言、連絡等がなされ、共通理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行なっており、全職員が取り組んでいる。 玄関の施錠は、防犯上、夜間のみ行なっている。	職員全員が利用者の人権の保持が「福祉理念の基本」であると認識のもと、日中の施錠はせず、一人ひとりの行動を見守りながら気分や状態について職員間で報告し合い、安全面に配慮した自由な暮らしを支えている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	普段の関わりの中で、少しでもおかしいと感じた時には、ヒヤリ・ハット／状態発見報告書で報告する体制を取っており、原因究明や再発防止に努めてます。管理者と職員が研修に参加している。	事業所内研修を行い、高齢者虐待法に関する理解の浸透や法令遵守に向けた取り組みに力を入れ、日々のケアについての振り返りも行っている。その場での気づきは報告書にまとめ、原因を探り再発防止に努めている。また、管理者は職員の様子を観ながら声かけをしたりして、ストレスが蓄積されないよう何でも話し合える関係性を心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料、報告書は常に閲覧できるようにしている。制度の理解と活用については、学びを深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	希望時、入居前見学にも応じており、不安の軽減に努めている。契約書に関しても、十分な説明を行ない、理解・納得いただけるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。ご家族や面会者が来られた時には、職員から声を掛けるようにし、コミュニケーションを図ることによって、良い関係を築く事ができるよう努めています。	家族には手紙や電話で、また、面会時に職員の方から声をかける等、何でも気軽に話してもらえる雰囲気づくりに努め、そこで頂いた意見や要望を職員間で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議に関わらず、日々、何でも相談できる環境作りに努めている。代表者、管理者との個別面談も行なっている。	毎月の職員会議には自由に意見を言える雰囲気づくりに努めることは勿論、日ごろから利用者、職員の要望や意見を聴くようにしており、必要時個別面談の機会も設け、そこでの職員の提案やアイディアを取り上げるなど運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による給与アップの体制がある。 有給休暇も取るようにしてもらっている。 基本的に、1ユニット・職員3人体制をとっており、ゆとりをもって業務ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップ研修や資格取得などに対しては、積極的に支援をしている。 研修委員会を設置し、企画・運営、情報提供を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐渡市グループホーム協議会に参加し、情報交換や交流の機会を得ている。また、実習生の送り込みや受け入れを行なっており、学びの機会を得ている。また、当法人の周年事業として、島内の医療・介護事業者と研修会・親睦会を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員から事前に情報を得て、一緒に過ごしていく上で、不安に思っている事等を傾聴し、また、入居後の不安を少しでも軽減できるように、施設見学にも対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込みの段階から関係作りに努め、本人と家族とのつながりを大切にし、何でも話をして頂けるような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を得る時には、本人や家族に対して、不快、不安な思いをさせないようにし、他のサービス事業所の情報提供を交えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、掃除、食事作り、畑仕事、買い物等を一緒に行なう事を基本とし、関係作りに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出の際は、日常の様子を伝えるようにしている。また、「お体の状態」「日頃のご様子」を毎月手紙で知らせたり、電話での対応を行なっている。	今までの暮らしが継続されるよう、家族面会の折や外出時、毎月の手紙や電話で、健康状態や事業所での暮らしぶりについて、報告したり相談をもちながら家族からの情報も大切にして共有に努め、関係が途切れないように配慮している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方々の面会時にも、家族同様、居室でゆっくりと過ごせるようにしている。馴染みの場所への外出を取り入れている。	どなたでもが気軽に立ち寄れる事業所としての雰囲気づくりを心がけ、面会時にはゆったりと居室で過ごしていただけるよう配慮している。また、行きつけの理・美容院へ行ったりと馴染みの場や人との継続的な交流が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人とのコミュニケーションを大切にし、全体の関係が円滑に図れるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、家族や関係機関と連絡調整を行なっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、本人がしたい事や要望等をくみ取るようにしている。また、アセスメントシートを使用し、思いや意向を把握するようにしている。定期的にカンファレンスを開催し、情報の共有に努めている。	生活歴やアセスメントシートを活用し、日々どのように暮らしていきたいかのか、思いや意向の把握に努め、定期的なカンファレンスのもと、今までの暮らしが継続できるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人、家族とお会いさせて頂き、生活歴や暮らし方等を確認している。また、担当ケアマネからも情報を収集している。愛用していた物品を持ち込めるように配慮している。	利用開始前に自宅訪問し、本人、家族、前担当者から情報収集を行い、利用したサービスや経過把握にも努め、本人が今まで馴染んできた暮らし方や生活環境の把握にも努め、落ち着いて安心して過ごせるように心がけている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活スタイルや病歴を把握し、接するようにしている。アセスメント時に、運動機能評価・体力測定を行ない、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や要望、家族の意見も取り入れ、日常的に情報共有に努め、サービス計画書の作成に活かしている。利用者一人一人に担当者が決まっており、より身近な存在として、本人に支援ができるような体制となっている。	本人、家族、担当者と話し合い、現状に即した利用者主体の介護計画が作成されている。家族からの要望は面会時や電話でも確認したり、相談をもちながらカンファレンス等で見直しを行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を、介護記録で理解できるよう、できるだけ具体的に記録するように心掛けている。 申し送りノートを活用し、より細かな情報を共有できるようにしており、出勤時に確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、受診に付き添ったり、買物などの外出の支援を行なっている。また、希望者には、出張マッサージや、地元の理髪店に来てもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の保育園へボランティアに出掛けたり、近隣の草刈りをしたり、繋がりを大切にしている。また、敷地内の畑作りやプランターの花の管理を職員と一緒に行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医で受診を継続するか、もしくは協力医療機関の往診を受けるか、入居時に本人および家族に希望を伺っている。必要時には、協力医療機関と随時連絡を取り合い、適切な医療が受けられるようにしている。	基本的に家族同行の通院となっており、家族の協力も良く利用者は安心して受診できている。家族の都合がつかない場合には職員付き添いによる受診となり、受診結果については随時家族への報告により安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が常勤しており、日常的に報告、相談が行なえている。また、日常の健康管理や医療機関との連絡調整がスムーズに行なえている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、口頭の他、介護サマリーを提出し、情報の引き継ぎを円滑に進めるように努めている。退院時には、医療機関を訪問し、可能な限り退院前カンファレンスを開催して頂き、情報の収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化と看取りに関する指針を提示し、確認して頂いている。利用者が重度化した時には、家族等と相談の上、医療機関や他施設への申し込みを行なっている。入院、入居が決定するまでの間、緊急やむを得ない場合を除き、入居を継続して支援しています。	事業所では看取りはしない方針となっている。状態低下時は家族と情報を共有しながら病院、施設への移行を支援している。今後は利用者、家族の意向を踏まえ協力病院との連携を図りながらチームで支援していくための体制整備と学習の必要性について感じている。	終末期ケアは行わない方針となっているが、今後利用者の状況変化により重度化していく中で、終末期ケアについて、研修を重ね理解を深め、本人や家族が安心できる支援体制の構築が期待される。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応については、ミーティングで話し合いをしている。急変時の対応も確認し合っている。AEDの操作方法を年に1回実践している。ほとんどの職員が救急救命講習を受講している。	急変や事故発生時に備え、研修やミーテングで検討し急変時の対応の確認を行っている。定期的に全職員が応急手当の勉強会にも参加し、知識、技術の習得に努め、実際の場面で活かせるように努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は日中や夜間の想定で、定期的に実施している。現在、地震・火災・風水害マニュアルの改訂に取り組んでおり、より実践的内容となるよう検討、修正を加えている。備蓄品に関しても今後備えていく予定である。	消防署の協力のもと、利用者の参加も得て定期的に昼夜を想定した避難訓練を実施している。職員体制も整っておりマニアルも迷うことなく閲覧できる場所に設置され、速やかな行動が取れるよう整備されている。	避難訓練、避難経路の確認等定期的に実施されているが、近隣合同での訓練は実施されていない。今後、緊急時に備え近隣からの協力を得られる体制整備を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護マニュアルを整備し、個別的なケアが提供できるように努めている。 内部研修でも取り上げて、勉強会を行なっており、プライバシーを損ねない対応を心掛けている。	職員は事業所の理念に基づき利用者、家族の思いを大切に、笑顔とさりげない言葉かけで利用者と向き合い個別的ケアに取り組んでいる。研修や勉強会で学ぶ機会も多く、プライバシーの確保について職員全員が理解を深めていく努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい食事、着たい衣類、出掛けてみたい所等、本人が自己決定できるような声掛けをし、希望を尊重した支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごしたい方、他者と交わりながら過ごしたい方、外出されたい方等、個別に支援している。買い物に出掛けたい方は、同行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替え、整容の際、清潔が保たれているよう支援している。 定期的に地元の理容店に出掛けたり、困難な方へは来園して頂いて、整髪等の支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を取り入れて、おいしく召し上がっていただけるよう努めている。野菜の皮むきや、料理の盛り付け、食器の後片付けを、できる範囲内で行なって頂いています。	利用者は職員と一緒に食事の準備、盛り付け、配膳等に参加している。園庭の畑で職員と共に育てた旬の野菜を使い、季節感を盛り込んだ食事が提供されている。献立表は利用者によって書き込まれ、職員と共に食卓を囲み、和やかな食事風景となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事を心掛けている。摂取が困難な方へは、栄養補助食品を摂ってもらっている。水分はしっかり摂って頂けるよう支援し、体調等によっては、清涼飲料水等を提供し、摂取量確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施している。夜間は義歯を外して頂き、義歯洗浄剤を使用している。　　月に2～4回、協力医療機関である歯科医院の往診があり、全員が定期健診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けにより誘導しており、安易にリハビリパンツや紙おむつを使用しないようにしている。歩行や立位の困難な方も、同じようにトイレでの排泄を行なっている。	利用者個々の排泄チエック表を活用し、時間誘導や手引き誘導等、利用者に合わせた排泄支援を行っている。オムツから布パンツになり、トイレで排泄出来るようになった事例もあり、自立に向けた支援と機能低下予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な食事、水分量がしっかり摂取できているか確認している。献立に繊維質の食材を取り入れたり、乳製品を毎日摂るようにしている。　　医療連携機関とも相談し、内服薬の調整を行なっている。軽い運動や体操を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重し、行なっている。午前中から入りたい方へも、対応できている。 拒む方には、職員を変えたり、タイミングを見て声掛けし、清潔が保たれるようにしている。	一人ひとりの希望や状態に配慮した個別対応に努めている。拒否がある場合は時間を変更したり声かけを工夫したりと、希望に添った方法でゆっくり気持ちよく入浴できるよう心がけている。また、季節湯も工夫され、特に菖蒲湯に浸って頂いて好評を得ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝時間は、本人の生活リズムを大切にして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書は、常に確認できる場所に保管している。誤薬がないように、内服して頂く前には、必ず2人の職員で内服薬のチェックを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできる事や、興味のある事を行なって頂けるような環境作りに努めている。買物、調理、手作業、畑作業等に参加して頂いている。年間の行事計画を立て、楽しんでいただけるよう取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、食材の買物に出掛けており、希望者だけでなく、声を掛けて一緒に出掛けるようにしている。季節に合わせたドライブにも出掛けている。　　家族へも外出や外泊ができる環境作りに協力をして頂いている。	日々の生活支援の一環として食材の買い物や地域行事への参加や季節に合わせたドライブにも出かける等、外出を楽しむ機会を設けている。外気に触れることで心身ともに活性し、機能向上に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思や能力に合わせ、お金を自己管理している入居者もいます。その他の方は、事務所で管理させて頂き、買物等で必要な時に、少額のお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の能力に応じて自由に電話を掛けて頂いている。できない方には、職員が取り次いでいる。郵便物に関しては、ハガキや切手の購入、ポストへの投函を支援しており、家族等とのやり取りができている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を置く事で季節感を取り入れたり、廊下や居間には絵や、入居者の方が以前に作成した版画を飾り、目で見て楽しめる空間を作っている。　　温度、湿度を1日2回測定し、適切な環境作りに努めている。	日本海が一望できる自然豊かな環境とベランダからは潮風が心地よく、在宅生活の延長を感じられる。ホールには利用者の作品や季節の花が飾られ、程良いゆったりとした空間が生活環境の一環となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に畳やソファーを置き、自由にくつろげるようにしている。玄関にもソファーを置いており、毎日、入居者の団らんの場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談の上、使い慣れた家具、寝具類を持ってきて頂き、安心して過ごせるように努めている。また、家具の置き場所も、本人の希望を聞きながら配置している。	本人が使い慣れた家具や日用品を持参することで、落ち着いた生活環境の工夫がされている。在宅生活の習慣でロッカーに片づける人、室内の飾り物で安心される人、本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新設された建物なので、バリアフリーであり、手すりなども設置されている。立ち上がりが困難な入居者の居室にも手すりを設置し、安全に行動ができるように対応している。		